

令和元年度 長野県下伊那農業高等学校 学校評価表(年度末評価)

学校教育目標	中・長期的目標		
	1 農業や関連産業の持続可能な発展及び地域社会・文化の担い手として貢献できる人材を育成する。 2 農業の持つ教育力を最大限に活用し、知・徳・体の調和のとれた人格を形成する。		
	重点目標	評価(記述)	評価
一 質実・剛健 一 誠実・堪能 一 積極・真摯	1 地域とともに歩む学校づくり	今年度も就職者の約89%が地元就職するなど、地域に根ざし、地域の農業・産業を担う社会人を育成する本校の使命・伝統を踏まえた教育活動を実践することができた。今後とも高校在学中に地元(産業・食・文化等)の素晴らしさを実感させ、県外の大学・専門学校等へ進学する生徒のUターンへの働きかけに一層努めたい。	A
	2 学校生活を支える環境づくり	安全で安心な環境で生徒たちが存分に力を発揮できるように、圃場整備、校舎内外の整備をすすめている。また本校独自の週番活動や生徒・職員の全員でおこなう清掃は、職員と生徒が連携・協働した活動であり、整った環境づくりに貢献している。いじめや暴力、非違行為のない学校生活が送れるように全職員が意識を高め働きかけもおこなっている。引続き教育相談や特別支援にも配慮し、必要に応じてSCなど外部との連携を図りながら、心の支援も含め、学校生活を支える環境づくりを充実させていきたい。	B
	3 自己指導能力を高める心づくり	日常の生徒指導や学習指導をとおして、基本的な生活習慣の確立に努め、規範意識や人権意識を醸成している。また、様々な地域連携や講師招へい授業、インターンシップ、農場実習や生徒会・クラブ活動等を通して、社会性や人間性を育成している。生徒及び保護者へのアンケートからは、本校で成長できたと感じている生徒が約85%、本校へ子どもが入学して良かったと感じている保護者が約91%となった。今後とも自制心や自律心、自己肯定感や自己効力感を育み、自立できるよう心の成長を促したい。	B
	4 新たな学びに転換する授業づくり	昨年度入ったICT機器を授業に積極的に使用する教員も増え、生徒にとってより分かりやすい授業、主体的に学ぶ授業への転換を更に進めている。 また、個人的に研究・研修を進めるだけでなく、研究授業や互いに授業参観を行ったり、授業のユニバーサルデザイン化等についての職員研修も行ったりし、授業改善に努めた。 生徒の授業満足度は91%に達しているが、今後もさらに「新たな学び」に対応した授業への転換を促進させたい。	A
	5 夢に挑戦する人づくり	学年ごとに段階的な進路指導計画を進め、早期から進路の意識付けを行うとともに、職場体験や進学ガイダンス、地域連携学習等により、具体的な職業観や勤労観の醸成、地域理解を含めてキャリア形成を促している。生徒アンケートでは「学校は進路情報をよく知らせ、進路指導をしてくれる」が約80%、保護者は「学校は進路指導に力を入れている」が約80%であり、概ね進路や夢の実現に向けた支援ができたと考え。今後とも、生徒・保護者の意見・要望を踏まえながらキャリア教育を推進したい。	A

<A:達成できた B:概ね達成できた C:不十分であった>